

研究タイトル： 木簡に特化した特徴抽出を利用した木簡削り屑の類似画像検索システムの開発



氏名：	小林 心 / Kokoro KOBAYASHI	E-mail：	kobayashi.kokoro@oshima-k.ac.jp
職名：	助教	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	電子情報通信学会		
キーワード：	木簡, 情報考古学, 画像処理,		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・画像認識・画像処理技術 ・機械学習技術 ・アプリケーション開発 		

研究内容： 木簡削り屑の組立補助システムの開発

私の研究は、「木簡削り屑の組立補助システムの開発」です。木簡とは、奈良時代平城京を中心に日本全国で使われていた木に文字が書かれた出土品のことで、主に荷札や文章を書くために使われていました(図 1)。当時、木簡はナイフで表面を削って再利用されており、その花がつおのような削り屑が平城京跡だけで数十万点単位で出土しています。木簡の削り屑は古文書などと異なり実用品だったものを捨てたゴミであることから、筆者の意図が入らない考古学上重要な資料として研究が行われています。この削り屑を組み立てることができれば(図 2)、元の形状の復元や、より多くの文字の解読が可能になる一方、考古学者が手作業で大量の削り屑すべてを網羅的に調査することは現実的でないことから、情報工学による研究補助システムの開発が必要となっています。



図 2. 複数の削り屑を組み立てた例[†]

本研究では、研究者向けの木簡削り屑の組立補助として、類似する木簡削り屑を検索するシステムの開発を行っています。類似する木簡削り屑画像を DB から検索し、候補の組を考古学者に提供することで、考古学者が木簡削り屑を組み立て、情報を読み取る補助を目指しています。

本システムを用いることで、木簡削り屑の復元や木簡の解析への新たなアプローチを提供するとともに、図 1. 荷札[†]日本の歴史における新たな事実を社会に提供する一助となることを期待しています。



図 3. 木簡削り屑の類似画像検索と復元^[写真は↑より]

[†]国立文化財機構奈良文化財研究所, “地下の正倉院展造酒司木簡,” 2015.

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	